

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 6 月 15 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	松島 慶

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
鹿児島県屋久島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島フィールド科学実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 5 月 18 日 ~ 平成 26 年 5 月 26 日 (9 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター 屋久島観察所
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
[実習の概要] 屋久島を調査地とし、フィールド調査の基礎を学ぶとともに、それに続くゲノム実習を履修することで、フィールド・ゲノムの二つの面からの野生動物研究のアプローチについて学習することを目的とした。現地では4つのグループに分かれ、それぞれのグループごとに実習を行った。私が所属したサルチームでは、屋久島の西部林道に生息する野生のニホンザルを対象に、追跡調査及び糞のサンプリングを行った。
[調査の内容] 実習の期間の内訳は、移動日及び準備日が4日間、調査日が4日間、及び発表日となっていた。調査日は、基本的には毎日同じ調査を行い、データを収集した。調査は朝出発し、西部林道へ移動し、車及び徒歩にてニホンザルの群れを探索し、発見しだい、追跡調査を行った。追跡調査時は、1分間スキャンサンプリング、フードアドリブサンプリング、フィーカルサンプリングの3つの役割に分かれ、随時交代を行った。フードアドリブサンプリングを行う者は、随時ニホンザルが餌としていた葉や実を採集した。フィーカルサンプリングを行う者は、糞の Lysis buffer 中へのサンプリング、RNALater 液中へのサンプリング、全量サンプリングの3種類のサンプリングを行った。なお、Lysis buffer 中へのサンプリング及び RNALater 液中へのサンプリングはゲノム実習へ用いることを目的として行った。
[調査の結果] データは、直接観察による行動記録、エサとしているもののリストアップ、糞サンプル洗浄により得られたものをまとめた。サルチーム全体としては15個体を超えるニホンザルを追跡したが、アクティビティバジェットによる解析では十分な観察時間が取れたと判断した8個体のみ、採食行動解析についてはその中で採食時間が十分にあった4個体についてのみに対して行った。調査自体に不慣れであったことと調査期間があまり長くなかったことから、解析に利用できる個体数も少なく、それらの観察時間が短かったため、十分な考察を行うことは難しかった。しかしながら、ニホンザルが食事にかかる時間の割合が非常に大きいこと、集団ごとに生活し、それぞれの集団がテリトリーを持つこと、ヤマモモの果実を多く採食すること、直接観察と糞観察(糞洗浄)ではそれぞれ特定できる採食物の種類が異なるなどということがわかった。
[反省と感想] スキャンサンプリングによる直接観察記録は野生動物調査の基本的な手法であるが、足場の悪い山中において、移動時のニホンザル追跡及び急斜面での静止は非常に難儀であった。自分の安全面を常に意識しながら活動していきたい。 反省としては、データ採集後にチームで集まりまとめを行う際になり、「あのデータは取っていないのか」などといった話題が出てくるということがあった。これは調査前に、データをまとめることを前提とした話し合いがなされなかったために生じたことだと思われる。特に今回は各国からの招聘者たちとともに、初めて集まったメンバーたちとともに活動だったため、調査準備段階での話し合いの重要性を改めて感じさせる出来事であった。もし、これが長期的な調査時のことであった場合大きなデータの損失につながりかねない。今後はそういったことの重要性を忘れないようにしたい。また、今回のように英語でのコミュニケーションが大切になる機会は数多く存在する。平成26年6月15日現在、英語力向上に努めていく。 http://www.wildlife-rc.org

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



道を歩いてサルを探す



糞サンプリング



集団でのグルーミング

6. その他 (特記事項など)